「今」を生きる

竹原中学校　三年　熊倉　一華

皆さん、「今」を大切にして過ごしていますか。

そう思うのは、「命の大切さ」を感じることがあったからです。

私は、祖父と祖母の家が近かったため、小さい頃からよく遊びに行きました。とても優しい祖父と祖母でした。しかし、私が小学校高学年の頃、祖父が脳梗塞で倒れました。近くの病院に入院することになり、母と祖母は毎日のように祖父の看病に通っていました。コロナの影響もあり、私は会うことができませんでした。

数年後、祖父は遠くの病院に移る事になりました。私は部活と重ならない日にお見舞いに行きました。久しぶりに会う祖父の顔を見た時、心が苦しくなりました。元気だった頃の顔つきとは違い、やせ細った祖父が居ました。お見舞いに行くまでは、「祖父なら大丈夫だろう」という気持ちがありました。でもそれはとても軽い気持ちだと気づかされました。

そして、数日後、祖父は亡くなってしまいました。母と祖母がお見舞いに行った日でした。

長い入院生活で辛かったと思います。元気な姿で自分の家に帰ることができたら、どんなに良かったでしょうか。けれど、それは叶いませんでした。

祖父をずっと気にかけていた中で、祖母も自分の病気と闘っていました。

「祖父を見送ってから逝きたい。」

祖母は、口癖のように母に言っていました。この言葉通り、祖父が亡くなって間もない頃に、祖母は具合が悪くなり始めました。治療のため、約四年間、三週間おきに岐阜の病院に通いました。さらに追い打ちをかけるように、春ごろ転んで骨折し、手術が必要となりました。祖父と同じように長い入院生活となって、持病の治療が不可能となりました。それでも、祖母は前向きにリハビリに励み、みんなが驚くほどすぐに歩けるようになりました。また治療に専念できるようになり、いつもの優しい笑顔を見ることができて、安心しました。

けれど、治療できなかった間に病状が悪化していたようで、祖母の体調は徐々に悪くなっていきました。そして、もう一度、入院することになりました。私は、母と毎日のようにお見舞いに通っていました。ですが痛みを和らげる強い薬の影響で、誰が誰だか分からないようになっていきました。

そして、私の名前を呼んでくれる事はなくなりました。

祖父が亡くなってから一年も経たないうちに、祖母は母と手を繋いで眠るように亡くなりました。

とても辛かったけれど、私に心残りはありません。祖父と祖母の状態に目を逸らさず、お見舞いに何度も行ったからです。私は祖父が倒れた時も、祖母の病気を知った時も、「信じたくない」と思うばかりでした。しかし、母が悩み、それを受け入れている姿を見て、私も二人のことを受け入れようとする心が芽生えました。だから、私は後悔していません。

私は、祖父と祖母から「いつ誰が居なくなるか分からない。だから、今を一生懸命に生きる」ということを教えてもらいました。私は、「昨日より今日、今日より明日」と、よりよい自分に成長できるようにしています。今まで苦手だった、自分を出すことにも挑戦しています。授業や生活の中で、自分から話したり友達の言葉に反応したりして、相手に思いを伝えています。また、いつも心配してくれている母の手伝いをして、感謝を伝えています。当たり前のことですが、「ありがとう」と言うことも忘れません。私にできる当たり前のことをして、後悔しないように心がけています。

皆さん、「命」を大切にしてください。命はいつなくなってしまうか分かりません。事故や病気など、命を落とす原因は数えきれないほどあります。いつ、誰が命を落とすか分からないのです。その中で、私たちは生きています。やろうと思ったらすぐ行動に移せる体をもっています。悔いのない人生を送るために挑戦すること、毎日のように身近な人に感謝を伝えることが何より大切なことだと思います。

あなたは、「今」を大切にしていますか。